

翻 訳

『アメリカにおける黎明期の女子陸上競技の状況』

(The Early Year's of American Women's Track and Field)

—『American Women's Track and Field

—A History, 1895 through 1980—』第1章より—

岡 尾 恵 市

〈訳出にあたって〉

ここに訳出するのは、Louise Mead Tricard の女史の著、『American Women's Track and Field —A History, 1895 through 1980—』（1996年 McFarland & Co. Inc., Publishers Jefferson, North Carolina 刊）の第1章「The Early Years」の部分である。

この書は1996年、近代オリンピックが誕生してちょうど100年、アメリカにおける女子陸上競技がニューヨークのバエサー大学（Vassar College）で「フィールド・デー（Field Day）」の名の下に初めて実施されたといわれる年から数えて101年目にあたる由緒ある年に発刊された Tricard 女史による746頁におよぶアメリカ女子陸上競技の年次通史の超力作である。

この原著にはカバーがなく、著者の Tricard 女史の経歴や現在の勤務先などは、奥書や本文中に記されていないので不明のままである。しかし、この書を紐解くなかで、著者が1959年度23歳の時、アメリカではじめて屋外で女子の400 m 競走と800 m 競走を採用した「全米女子選手権大会」において、ニューヨーク警察の陸上競技クラブに所属して出場し、200 m 競走で25秒3の記録で5位に入賞して以降、毎年の様に全米クラスの諸大会の短距離やリレー、400 m 競走、800 m 競走で度々入賞を果たし、優れた選手生活を送った人であることがわかる。

著者は1960年の「オリンピック・ローマ大会」にむけた「全米最終予選会」当時には、ニューヨーク市ブロンクスの体育教師をつとめながら、800 m 競走で4位に入賞したが、アメリカ代表の選考から漏れてオリンピック大会出場の夢は果たせなかったものの、その後、室内の440ヤード競走において61秒2の「全米室内新記録」を樹立するなどして、1963年に27歳で第一線を退くまで活躍した人である。

彼女は引退後、幼いとき患ったポリオを見事に克服してオリンピック・ローマ大会の100 m・200 m・4×100 m リレーの3種目に金メダルを獲得した友人のウィルマ・ルドロフ（Wilma Rudolph）選手に啓発・助言を受けて、全米の80余年にわたる女子陸上競技の詳細な活動成果と記録等について、各時代の学校史・新聞・学会誌・雑誌・著書等の莫大な資料を永年にわたって収集・取材し、これらを分析・研究して年次別の63章に分けて、各年度の特徴、大会の内容や各記録にその時のエピソードや写真を織りまぜながら執筆し、この書を刊行した。

訳者は、現在では男子と遜色ない種目が世界的に認知されて設定され、目覚ましい記録を達成し、人気も高い世界の「女子陸上競技」について、黎明期には男性の競技会から排除されたり蔑視されるなかで、自主独立の活動形態をとった「英国女子陸上競技連盟（WAAA）」と男性の競

技会に同化する方針をとりつつ歩んだ「世界女子スポーツ連盟（FSFI）」という路線の違った2つの組織がありながらも、それぞれの組織を強固に確立して女性スポーツの活動を今日へと導いた初期の諸活動や競技者の記録の実態を検証することを通じて、21世紀に向けて「女性スポーツ」や「女性の競技」は如何にあるべきかの指針を示そうとしている。

その意味で、この書の第1章「The Early Years」の部分は、黎明期のアメリカ女子陸上競技がどのようなものであったのか、女子が陸上競技を行なうのについてアメリカの体育・スポーツ人のなかでどのような議論があったのかを示す資料として極めて興味深いものがあると、ここに訳出することにした。

「近代陸上競技」の黎明期・草創期を主とする組織発展史の研究が、ややもするとイギリスやドイツ等欧州の男性の競技界の文献を中心にしたものに傾斜するなかで、この資料はアメリカの女性たちが19世紀末から約100年間、女性独自でどのような活動をしていたのかを克明に追った資料として極めて貴重なものである。

この資料が「女子陸上競技」のみならず今後の「女性スポーツ」全般にわたる研究発展の一助となれば幸いである。

〈1870年代のアメリカにおける女子陸上競技の状況〉

アメリカの各カレッジの女子の陸上競技史の資料によれば、初期の時代には「歩行運動（walking）」がはっきりと推奨、奨励され、義務づけられていたことがわかる。1837年には、マウント・ホウリオウク大学（Mount Holyoke College）では、女子学生に1日に1マイル歩かせることを必須としていた。1860年代にはノースウエスタン大学（Northwestern University）で、1日30分間の「歩行運動」が必須とされていたし、1862年にはエルミラ大学（Elmira College）も同様のことを必須としていた。

「歩行運動」のクラブは、ネブラスカ大学（University of Nebraska）では1891年に、ミルズ大学（Mills College）では1901年に発足した。「歩行運動」は指導もコーチも、普段の身体訓練も、女性を室内で運動させたり屋外で服を着て無理矢理行なうための服装を調達することも不要で、天候にも左右されず、規則や諸準備も施設も必要ではなく、「歩行運動」によって「筋肉隆々になる」と決めつけられることもなかった。

その意味で「歩行運動」は、「女性」のスポーツであった。女性がもっと遠くにまで歩きたいと願ったので、「競歩競技」が行なわれるようになった。1976年6月、『女性スポーツ（Women Sports）』誌に「歩行マニア（walking mania）」というテーマの論文を書いたバーバラ・ウォルダー（Barbara Walder）は、「マラソン・ウオーキングは、女性の能力を示す機会となっただけでなく、名声と賞金を稼ぐ機会をももたらした」と述べている。女性たちは、かつて男性のために行なわれていたスポーツ界に足を踏み入れたのである。

ウォルダーは、ルル・ルーマー（Lulu Loomer）が行なった700マイル（約1126 km）以上もある様な距離を歩く「歩行運動」について、「彼女は恐らく35人いた女性ウオーカーのうちのひとりだったか、1870年代後半にいた東海岸の「歩行マニア」の温床を作る手助けをしていた『プロの競歩選手（peds）』のひとりだった」と述べている。

ウォルダーは「1870年代中頃には、女性は500ドル以上の賞金を賭けて競争をしていた」と述

べている。彼女はエイダ・アンダーソン (Ada Anderson) が、女性の「歩行マニア」を流行させたと確信している。1878年にはブルックリンのモーツアルト・ホール (Mozart Hall) で、アンダーソンは1か月の間、15分毎に1回、 $\frac{1}{4}$ マイル (約400m) の距離を歩いた。ウォルダーは「大多数の観衆は女性であり、この大観衆はある特別な女性の競歩を見るためだけにここに来ていたのだ」と述べている。モーツアルト・ホールでこの出来事を見たあるレポーターは、「女性の観衆たちは、おおよそ男性でも出来ない様なトラックで行なわれているこの素晴らしい光景に魅せられていたので、興味津々でこれを見物に来ている女性と同伴の男性が、もう帰ろうと言った後でも、ここに残って見ていたいと何度も頼んで、『もう一周、あともう一周』といいながら、連日、一度に何時間もの間、アンダーソンを見つめていた。」と報告している。アンダーソンは歩行の途中で女性たちに呼びかけを行なって、彼女の「競歩」が馬車に頼らなくてもよいようにもっと歩くように女性たちを励ますことを希望すると述べた。エイダ・アンダーソンは、 $\frac{1}{4}$ マイルの距離を15分ごとに2700回 (=約1086km)、都合675時間 (約28日) かけて歩いた後に、10000ドルをもらってモーツアルト・ホールを「歩いて」出ていったのだった。

「女性によるマラソンと興業が国内に広がった。1年間に10州で競歩の試合が行なわれた」。女性の「歩行マニア」に人気が出てきたので、賭け師 (bookmaker) やマネージャー、トレーナーとその助手たちが試合を仕組んだ。他の女性たちも「長距離競歩」を開始した。1875年以降、試合を行なってきたシカゴのマーシャル夫人 (Mae Marshall) は、ワシントンで $\frac{1}{4}$ マイルの距離を2700回歩く (=約1086km) 「ウオーキング」を開始した。アン・バーテル (Ann Bartell) は、ニューヨークのブリュースタ・ガーデン (Brewster Garden) で $\frac{1}{4}$ マイルを3000回歩く (=約1206km) 「競歩」を始めた。

〈6日間「賭け競歩大会」の様子〉

1879年4月12日付の『国家警察公報 (The National Police Gazette)』は「とんでもないペデストリアンたち (the pretty pedestrians)」というタイトルをつけた記事で、試合について事細かに報じた。

「水曜日の夜、ギルモア・ガーデン (Gilmore's Garden) で始まったこの女性の6日間競歩大会は……終局を迎えた。この試合は、6日の間にどれだけの距離を歩けるかを競うもので、1位にはチャンピオン・ベルトと1000ドル、2位には500ドル、3位には250ドルのほかに、325マイル (約523km) を完走したものには200ドルの賞金が準備されて開催された。26日の午後11時に18人の野心をもった「賭け競歩選手 (pedestrian)」たちは、自分の名誉をかけて、途方もない長い道程に向かってスタートを切った。このまざまざ優秀な競技者の一団は、コーラ・クシング (Cora Cushing)、ベラ・キルベリー (Bella Killbury)、ジョイス・ウイルスン (Joice Wilson)、ロサ・フォン・クラマッシュ (Rosa Von Klamasch)、ラ・シャベル夫人 (Madame La Chappelle)、空中ブランコ乗りのローラ嬢 (Miss Lola)、ベルタ・フォン・ベアク (Bertha Von Berg)、ヘンリー嬢 (Miss Henry)、メアリアン・カメロン (Marion Cameron)、フランクリン夫人 (Madame Franklin)、ファニー・リッチ (Fanny Rich)、エバ・サンクレア (Eva St. Clair)、バシー・コーン (Bassie Kohm)、ベラ・ブランダン (Bella Brandon)、エイダ・ウォーリス (Ada Wallace) とファランド嬢 (Miss Farrand) などであった。この選手のうちの何人かは、500マイル (約805km) またはそれ以上の距離を毎15分間ごとに区切って歩いた記録を持ったものだったが、他の何人かは度々休憩しないと歩けないものがあることも知られていた。……(中略)……彼女らは風変わりな一団 (queer lot) だった。長身の者や背の低い者、太った者

や瘦せた者、若い者や中年、そして可愛い者もいたが、殆どは見苦しかった。その数は非常に速いうちに本格的に歩き続けようとする者だけに減っていった。ヘンリー嬢とフランクリン夫人は24時間経たない内に落伍した。次の48時間には6人またはそれ以上の選手がいなくなり、その前日にはクシング、ファランド嬢、ウィリアムスとリッチの少なくとも4人以上がレースをやめた。

2日目の午後11時5分過ぎには18人の内5人だけとなっていた。いくつかの興味ある出来事が6日目すなわち最終日に起こった。20マイル（約32 km）先行していたベルタ・フォン・ベアクは、初日と同じように着実に歩いていた。18人の内で唯一彼女だけが6日間同じ体調で歩き通した。

ウィリアムスは自分の家に送り返され、可哀想な54歳のファランドはベルビューベ病院（Bellevue hospital）に担ぎ込まれた。……

最終日の早朝には若いキルベリーと中年のウォーリス夫人が接戦を演じた。16歳の少女のキルベリーは、持久力と勇気に富み自分を抜き去ろうとして懸命に努力したウォーリス夫人を徐々に追いつめて、午前4時頃について抜き去った。それでも戦いは止まず、ライバル同士が必至に並んで歩こうと、もがいたので衝突を起こしそうになった。

ウォーリス夫人は、ほとんど狂乱状態で歩きながら何か意地の悪いことを言った……。若い女性に勝ちを譲ってしまうのを見るのは、ウォーリス夫人の心臓を止める様なことだった。キルベリーの頑張りや、ウォーリス夫人を罵る様だった。彼女は時々走り、他の選手と元気よく歩いたりした……。〈中略〉……午後1時、出発後325マイル（約523 km）地点で、キルベリーは応援団の大きな声援に対して、太鼓を持ってきてドンドンと元気に打ち鳴らすという様なパフォーマンスで応えた。

トバイアス夫人（Madame Tobias）は、素敵なフォームで歩き、時々速度を上げた。しかし彼女は自分の休憩用のテントでかなりの時間を過ごしたので、レースでは4位だった、気立てが良く、勇気のある小柄なフォン・クラマッシュの後ろに後退した。フォン・クラマッシュはオーストリア人であり、彼女は数か国語を流暢に喋った。彼女の父は、金持ちのドイツ人だった。彼女の父は自分の娘に自由な教育を受けさせた。彼女は、自分の運命を弄んだ金持ちのヴァージニアの男と駆け落ちをしたが、彼は彼女に貧しさを残して死んでいった。2人には6人の子供がいて、5人までが死んだ。教師やお針子では快適な生活が出来ないので、十分な練習をしないまま、この歩行レースに参加したのだった。彼女は午後10時過ぎには、296マイル（約476 km）歩いていた……。〈中略〉……彼女はすでにチャンピオン・ベルトの保持者であるフォン・ベアクに迫っていた。国内の女性の「競歩選手」のうちの半分のものであるのは、こうしたことをしたいとの決意を表わしていた。これらの女性のうち、マエ・マーシャルも優勝したいと願っていた。

競技者たちは11時20分で歩くのをやめた。その時の状況について述べると、ベルタ・フォン・ベアク〔本名マギー・フォン・グロス（Maggie Von Gross）〕は、372マイル（約596 km）、ベラ・キルベリーは352マイル（約566 km）、ウォーリスは336マイル（約540 km）、フォン・クラマッシュは300マイル（約482 km）、トバイアスは292マイル（約469 km）……だった。

フォン・ベアクはベルトをもらった。これは「アストリーの競技規則（Astley rules）」の下で開催されたものであり、現金1000ドルを受け取った。キルベリーは300ドル、ウォーリスは250ドルを受け取った……。

トバイアスはゴール後、自分は勝つための各種の試合には申し込まないけれども、自分が出れる限り練習をしたり見物したりするのだと語った。トバイアスがこの試合では最優秀の選手だったというのが一般的な意見だった。」

〈1880年代の女子陸上競技の様子〉

1880年以降、女性の「賭け競歩選手」の数は少ないものになった。

女性の競走大会の報告は1880年代には珍しいものになっている。「第20回ブルックリン・カレ

ドニアン・クラブ大会（the 20th Annual Brooklin Caledonian Club Games）」における女性の競走についての話は、1886年7月6日の『ニューヨーク・タイムズ紙（the New York Times）』に載っている。女性のための220ヤード競走が行なわれた。

この競走は、

「猛烈な熱狂を巻き起こし、良い見物場所を確保しようとした観客の席の奪い合いによって慌ただしい中でロープが引きちぎられた。9人の出走者がいて、これらの可憐な少女はそのあたりの公園では見かけられないほどの女の子だった。ピストルの銃声でみごとにスタートを切り、30秒の間、拍手と興奮が渦巻いた。ベッシー・エドワード嬢（Miss Bessie Edwards）が他の選手を引き離してリードした。しかし彼女の隣を走っていたケート・マクドナルド嬢（Miss Kate McDonald）は何とか同時にゴール・ラインに到着し、2人が1着で、3位はリリー・フレミング嬢（Miss Lily Fleming）との判定が下された。エドワードとマクドナルドの両嬢は再びコースに戻り、ふたりは銀製のディナー用の食器を賞品として勝ち取るために全力を傾けて挑戦した。エドワードが2ヤード先行してテープを切った。」

一般的に、女性の陸上競技に関する資料は不足している。1895年1月26日の『警察広報（The Police Gazette）』には「強いニューヨークの少女たち（Strong Gotham Girls）」についての話が載っている。少女たちは今も体育館の中で練習に励んでいるという事が拍手喝采を受けているという中で、記者は、

「陸上競技場に若い女性が押し寄せてきているという奇妙なことが起ってきている。結婚相手にふさわしい独身男性たちが、このクラスの中から自分の妻になる女性を探そうとしている。女性の持っている身体的な強さは、臆病な男性以上に引きつけるものがある。大半の人は、自転車で30マイル（約48km）走り、体操用のこん棒（indian club）を操作し、サンドバッグをたたく少女の能力が、自身をしっかりした心の持ち主になると同時に、筋肉が女性をたくましく、しかも力強く発言出来る者にするのだと思っている。このことは間違いだということがわかってきている。体育館で運動をしている当世「流行り」の競技をしている少女は、現在になって数が増え、流行となってきているが、本人は時には「文学少女（blue stocking）」の様でありながら、実はもう「文学少女」ではないのである。この女の子は本質的には、か弱いのである。概して自分は選挙権を望まないし、自身に上手く合致した分野を除いて、政治支配や統治をしたいとの要求は、自分の考え方からは遙に縁遠いものになっている。」

と報じた。

この記事は、バスケットボールや自転車の流行を認めてはいるが、バスケットボールをしている間は、どんなに「突っかかって興奮しても、どんなに熱中していても、あるいは敵側に意地の悪い3点シュートを入れても、バスケットのゴールは1度だけしかカウントされない」ということを述べたものなのである。

〈アメリカではじめて女子競技会を行なったバエサー大学における女子陸上競技会の様子〉

一方、バエサー大学体育会（the Vassar College Athletic Association）は、「フィールド・デー」と呼ばれるアメリカで最初の女子の陸上競技大会を企画した。1895年11月9日のことだった。第2回大会は1896年5月に開催され、陸上競技種目の数は5種目から10種目に倍増された。この「フィールド・デー」における成功と興奮は、教師のハリエット・バレンタイン（Harriet Ballantine）とエバ・メイ（Eva May）が、1896年7月のハーバード大学の夏季講習会に参加してきて得た陸上競技の知識を改良して考えたものであった。

1897年には、ハリエット・バレンタインは、かつて「フィールド・デー」について著わし、女

子学生に対するこの大会の効用について説明したことのあるコネチカット州のブリッジポート（the Bridgeport, Connecticut）での体育学会（Physical Education Society）で講演した。1898年3月には、彼女の講演内容は全国的な研究誌である『アメリカ体育学研究（the American Physical Education Review）』に論文として掲載された。バエサー大学女子体育会（Women's Athletic Association of Vassar College）が主催した「フィールド・デー」を行なう組織の存在によって、結果的に、ハリエット・バレンタインが、アメリカにおける女性の陸上競技についての最初で唯一の発言者としての地位を受けることになった。幸いなことに、バエサー大学の競技者たちは、バレンタインが「私たちは身体トレーニングの役割と必要性に関して悪い評判を立てられた結果、“フィールド・デー”をその様に評価されていることを残念に思います」と『心とからだ（Mind and Body）』という雑誌の中で書いたことによってそうした不安が取り除かれた。

バレンタインは他にも評論文を書いているが、彼女はすべての屋外スポーツのなかで陸上競技が興味を増してきていると言い続け、こうした種類の活動が女性の間で増え続けてほしいと思われるっていると指摘した。彼女はこうした身体活動は、それまで女性が習慣にしていた様々な運動の形態よりもはるかに疲労が少ないといい続けた。他の学校も陸上競技の大会を採用したとき、バレンタインの仕事は楽になった。

『アメリカ体育学研究』の1898年9月号には、マンハッタンとブロンクスの公立学校における体育教育が開始されたことについて述べている。1896年には2人の女性指導教員が任命された。運動の内容について、初心者教師のために簡単にする必要があるときは、通常、初歩のランニングと跳躍・投てきを行なわせれば良かった。しかし、正しい姿勢と呼吸量を増すためには高度な練習が工夫された。

ハリエット・バレンタインは『アメリカ体育学研究』の1901年6月号の別の論文の中で、国民に対する体育教育について二度目の見解を述べた。「私たちの大学には丈夫で強健な数百人の女子学生がいます。学生たちの元気で正常な状態が、非常に健康的な活動と真に激しい身体活動をはっきりと要求しているのです」と、名門のバエサー大学にいる一人のアメリカ女性の発した声は、女性のための陸上競技を支援するものとなった。

〈C・H・ターヒューンとH・H・ホルトンの女子陸上競技観〉

1901年には、バエサー大学での大胆な「フィールド・デー」によって刺激を受けた他の多くの大学は、自分たちの大学の「フィールド・デー」を産み出し、バエサー大学での記録に挑戦しようとしていた。女性のための陸上競技は国中の各学校に野火の様に広がりつつあった。

1903年には『女性のための運動と屋外スポーツ（Athletics and Out-Door Sports for Women）』という著書が出版された。クリスティン・ヘリック・ターヒューン（Christine Herrick Terhune）によって著わされた陸上競技の章は、女性向けに女性によって書かれた最初の著書であった。彼女は今まで行なっていなかった陸上競技の厳しいトレーニングをする場合には、陸上競技種目における女性のための指導を考慮して準備する様に論じた。

ターヒューンは、トラック競技が「女性の陸上競技の中でも比較的新しく行なわれる様になってきたもの」だと述べた。彼女は、身体を発達させるためのトラック競技は「男性の向こうを張ってフィールド種目に参加すべきではなく……、トラック種目に打ち込む女生徒の疾走は、スタ

ートから自分に打ちかつことによって影響を及ぼされたもの」だとの見解を示した。ターヒューンは、競技者は競技を始める前から競走が好きだと考えているかも知れないが、その幻想はすぐ消え去ると述べ、「もしもその競技者が他の競技者から遅れをとるなら、練習は明けても暮れても続けなければならない」と述べた。ターヒューンは、男性のコーチは女性の競技者に対して男性の競技者と同様に厳しく接する時以外でも、女性の競技者を認めるべきだと提案した。「女性競技者のやっている練習内容は男性に比べて軽いかも知れないが、しかし女性のドリルは基本的に忠実で、男性と同様に規則正しくすべきである」とも述べた。

ターヒューンは、柔軟運動やストレッチングは冬期に体育館の中で行なっておけば、個人の競技者が試合をする種目を選択できると書いた。彼女は各々違った女生徒が色々な種目が好きであり、あるものは他の生徒たちより、もっと違った種目に適しているとも述べている。しかし、結果的に競走種目をやろうとしたときには、生徒たちは自分の走能力がどれほどあるのかについての疑念をほとんど持っていないのである。「女生徒たちはいつも走ってきたし、恐らくこれからも走ると思うだろう。」

短距離走について論ずる中で、ターヒューンはいくつかの助言を与えた。屋外よりも屋内で、膝や爪先ではなく臀部を使って走り、フォームづくりの練習では両膝を高く持ち上げれば爪先で走れる様になると述べ、短距離走では「クラウチング・スタート」、長距離走では「スタンディング・スタート」について触れ、短距離のスタート練習が大切だと述べた。短距離走や長距離走のスタート、ハードル走、跳躍、投てきをしている少女の写真が、選手のトレーニングの手助けとなると述べた。ターヒューンは全種目を網羅して説明した。

スパイク・シューズについて、ターヒューンは明らかに有利だと考えていた。この靴はすでに男性の競技者が履いていたが、彼女は、この靴を履くことは「まだ生徒の間には一般化されていない」と指摘した。

この書の第2章は、ハーバート・H・ホルトン（Herbert H. Holton）氏が「ランニング」という表題をつけて執筆している。ホルトン氏はボストン陸上競技協会の一員であり、1902年にウエルズリー大学（Wellesley College）においてランニングとハードルの指導員でもあった。彼は女生徒たちを教えるときには、「ガンバリ（strenuous endeavor）」よりも「フォームの美しさを目的とするべきだ」と述べ、競技者は一週間に3日間の規則正しい練習が必要で、「トラック・チームを作る」には、事前に8週間のトレーニングを準備する必要があると述べた。ウエルズリー大学の学生たちは、“スパイク・シューズ”を履いてコーチを受けた。

〈ニュージャージー州における女子陸上競技の様子〉

『モントクライアー・タイムズ（Montclair Times）』の1903年5月30日号には、アメリカではおそらくまだ一度も行なわれていなかったニュージャージー州での、女子学生のための2つのトラック大会の結果が報告されている。この大会とは、1903年5月29日に行なわれた「モントクライアー高校（Montclair High School）対ポンプトンのパムリコ陸上競技協会（Pamlico Athletic Association of Pompton）」の大会と「パムリコ校の陸上競技グループの女生徒のための大会」である。天気は上々で、200名の友人と学友による観衆が、大会を見るために陸上競技クラブのグラウンドに注目した。

最初の種目は50ヤード競走だった。モンククライアー高校のゲートルード・ギファン (Gertrude Giffen) が7秒0で勝った。ブルーマーとブラウス姿の9人がこの競走に参加した。第2種目は8ポンドの砲丸投で、クララ・マンチーニ (Clara Mancini) が勝った。ゲートルード・ギファンは2位だった。マンチーニは29フィート1インチ (8m87) を投げた。2人はモンククライアー高校の代表選手だった。走高跳では4フィート2インチ (1m27) だった2年前の記録と同記録だった。モンククライアーのスクールカラーである青と白の服を着たゲートルード・ギファンが、同じ4フィート2インチ (1m27) を跳び優勝者となった。

第4種目は75ヤード走で、短距離のレプリカがかかっていた。ゲートルード・ギファンは、10秒4で楽勝した。300ヤードリレーではモンククライアー高校が42秒6で優勝した。大歓声の中で生み出されたエキサイティングな種目だったと報告された。彼女の3人のチームメイトが加わって最終走者として走ったのはゲートルード・ギファンだった。

この日の最終種目は、走幅跳であった。この種目では唯一、パムリコ陸上競技協会の選手が勝った。スクールカラーの赤とグレーのシャツを着たマリー・リチャーズ (Marie Richards) は、14フィート3インチ (4m35) を跳んだ。パムリコ・チームがこの種目の結果のアナウンスを聞いたとき、新聞は、彼女たちが「この瞬間のために持ってきていた多くのホーンを吹いて喜び表現した」と報じた。

金銀銅のメダルが入賞者の選手に渡され、モンククライアー高校が銀のトロフィーを勝ち取った。記録がヴァエサー大学のもものと比べられた。

女性の陸上競技の記録一覧表がはじめて1904年版の『スポルディング社公式陸上競技年鑑 (Spalding's Official Athletic Almanac)』に掲載された。15種目の記録のうち10種目はヴァエサー大学の学生の出したものであり、ヴァエサー大学以外のは走高跳を除いてヴァエサーの選手が参加していないものだった。ヴァエサー大学の記録は、1903年になって、はじめてこれとは別に発表された。1904年のスポルディングの記録は以下の通りである。

表一 1904年『Spalding Official Athletic Almanac』による全米女子陸上競技記録表

種目	記録	氏名	所属	樹立日
50 Y 走	6 秒 6	Anges Wood	Vassar College N. Y.	1903.
75 Y 走	10 秒 4	Giffen	Montclair N. J.	1903. 5. 29.
		Nina Ganung	Elmira N. Y.	1903. 6. 6.
100 Y 走	13 秒 2	Fannie James	Vassar College N. Y.	1903. 5. 17.
220 Y 走	30 秒 6	Agnes Wood	Poughkeepsie N. Y.	1903. 5. 17.
40 YH	7 秒 2	Marian Amick	Elmira N. Y.	1903. 6. 6.
60 YH	10 秒 6	Nina Ganung	Elmira N. Y.	1903. 6. 6.
120 YH	20 秒 0	Julia Lockwood	Vassar College N. Y.	1900.
走高跳	1 m30	Lydia Carpentre	Plattsburg N. Y.	1903. 5. 18.
走幅跳	4 m43	Evelyn Gardiner	Vassar College N. Y.	1903.
立幅跳	2 m31	Evelyn Gardiner	Vassar College N. Y.	1903.
砲丸投 (8ポンド)	9 m14	Elsa White	Vassar College N. Y.	1902.
塀登り	1 m49	D. E. Merrill	Vassar College N. Y.	1900.
野球用球投	52m92	Julia Lockwood	Vassar College N. Y.	1901.
バスケット球投	22m10	Harriet J. MacCoy	Vassar College N. Y.	1902.

なお、氏名と日付は著者が書き加えた。ヴァエサー大学は、各種目の標準記録を設定し、あとに続く他の諸学校のために記録を樹立していったのである。

〈当時のアメリカの体育指導者の女子陸上競技観〉

1895年から1960年代までのアメリカにおける女子陸上競技の歴史は、アメリカの女性体育家たちの態度と思想が密接に関連していた。

学校の内外でともに女子陸上競技が発展してきたのはこうした理由があるからであり、この時期には、女子体育指導者協会のリーダーたちの考え方がこれに追随したのであろう。男性の陸上競技の大会に問題がなかったことを思い起こさなければならない。ある男の選手が、100ヤードや砲丸投への参加について理屈付けをしなければならないことはなかった。男性のための競技会は、昔から「男らしさ（mascline）」を表わすものだと考えられ、男の職場では、むしろ必要性さえ感じる、願いの込められた「特質（attribute）」だと言われてきた。誰も男性の学生陸上競技大会には疑問を持たない。それは競技会が活動的な勇氣と発達をもたらすものだからである。競技会はチャンピオンを生み出すとともに、勝利のための指導者の重要性和強い位置づけをも生み出す。競技会はまた、著名なコーチの地位を旨味のある高額で準備した。陸上競技場から離れたところで成功する秘訣は、チャンピオンの男性競技者を続々と送り出すことだった。1800年代以降、年々、学校とクラブは、陸上競技の幾多のチャンピオンの男性を輩出してきた。そのうちのある者はさらに多くのチャンピオンを代わる代わる生み出してきた優秀なコーチとなり続けた。このことは如何にプログラムが充実し、強力になってきたかを物語っている。女性のプログラムには「米国アマチュア陸上競技連盟（National Amateur Athletic Federation）」の女子部（the Women's Division）が組織された後も、こうした機会はなく、1930年代以降、1961年に至るまでアメリカの学校から、女性の大会や陸上競技を無くしてしまうという計画が企てられた。

『アメリカ体育学研究』の1904年3月号には、ウイソコンシン州の体育協会によって「女性のための大学対抗陸上競技大会は承認しない」と論じられた決議が掲載されている。この決議は中西部の19大学の女性の学部長が参加した会議を通過した。

『アメリカ体育学研究』の1906年9月号は、「高校トレーニング協会（Public School Training Society）」の第1回代表者会議のことを報告している。この代表者会議の中心論題は「女子生徒のための陸上競技（Athletic for Girls）」についてであった。この会議の公開演技には、「われわれは女子生徒のための高校陸上競技大会を承認しない」と決議されたにもかかわらず、女子生徒による砲丸投とリレー競走が含まれていた。

「走・打・投の能力は、すべて男性的な能力である」とルザー・ハルゼー・ギュリック博士（Dr. Luther Halsely Gulick）は、1906年3月30日の第1回体育教育総会の会長講演で述べた。彼はこの会の会長であると同時に、ニューヨーク州のパブリック・スクールの体育トレーニング協会の理事長でもあった。ギュリック博士は、デュデリー・A・サージャント博士（Dr. Dudley A. Sargent）、マッカルディ博士（Dr. J.H. McCurdy）など著名な体育家たちのいる聴衆に、如何に陸上競技が男らしくない（manliness）ことを試すものかについて語りかけ、近年「フィールド・デー」を行なったニューヨーク市内にあるスタテン島（Staten Island）にある小さな高校を引き合いに出して、バエサー大学の女子学生の陸上競技の能力をあざ笑った。彼は「はじめてのフィールド・デーにおけるこの高校の女子生徒たちは、バエサー大学の女子学生がすでにつくった記録よりも4種目において好記録を生んだと聞いている、と言いたい。」と語った。彼は、女子生徒には陸上競技に付随した屋外の運動を準備すべきだと認めて演説を締め括ったが、彼は厳しいチ

ームがやっているトレーニングが心身に有害だとの意見を述べ、「余り頑張らずにレクリエーションのための陸上競技や大衆のための大会をやろう」と語りかけた。

他の講演で、デュデリー・アレン・サージャント博士は、女性が男性の陸上競技大会に参加すべきかどうかを調査したと述べた。博士は「荒々しく男性的なスポーツに優れた女性は、男性的な特性を受け継いでいるか獲得した人であるかである……。男性に比べて相対的に短足で重い腰と太股は、あらゆる競走や跳躍、棒高跳等々においては、女性に厳しいハンディキャップとなっているはずだ。生物分類上の女性は、男性と同様の延長上線の心身の系統に位置づけることはできない」と断言した。サージャント博士は、女性のための陸上競技活動を禁じはしないが、ハードルの高さを低くして距離を短くしたり、砲丸投や他の「投てき用具」の重さを軽くしたり、記録を出すことよりも良いフォームを強調すべきだと提案した。サージャント博士によれば、「みごとな優雅さ (exquisite grace)」が女性の陸上競技の成績として評価されねばならないことになる。博士は「女性に対しては、強く、活発で、雄々しくなる努力をしている男性や男子生徒に好意を持たれる婚約者になるための荒々しいスポーツについて十分考慮すべきだ」と述べた。

（1908年以降のアメリカにおける女子陸上競技の状況）

当時の体育界の指導者たちによって考えられたり意見が広められたこの種の理念に基づいて、女性にはどんな機会があったのだろうか。

1908年の『スポルディング社陸上競技年鑑』には、次の様な女子陸上競技の記録が掲載されている。

表一2 1908年『Spolding Official Athletic Almanac』による全米女子陸上競技記録表

種目	記録	氏名	所属	樹立日
50 Y 走	6 秒 2	Fannie James	Vassar College N. Y.	1904. 5. 7.
70 Y 走	6 秒 8	Amelia Ware	Vassar College N. Y.	1908. 5. 9.
75 Y 走	10 秒 1	Helen Buck	Mt. Holyoke College So. Hadley Mass.	1905. 5. 10.
100 Y 走	13 秒 0	Fannie James	Vassar College N. Y.	1904. 5. 7.
220 Y 走	30 秒 6	Agnes Wood	Poughkeepsie N. Y.	1903. 5. 17.
40 YH	7 秒 2	Marian Amick	Elmira N. Y.	1903. 6. 6.
60 YH	10 秒 6	Nina Ganung	Elmina N. Y.	1903. 6. 6.
100 YH	16 秒 6	Martha Gardner	Vassar College N. Y.	1906. 5. 12.
120 YH	20 秒 0	Julia Lockwood	Vassar College N. Y.	1900.
走高跳	1 m 37	Helen Schutte	Central High School St. Paul Minn.	1905. 4. 28.
		Helen Aldrich	National Chathedral Sch., Washington D. C.	1905. 5. 26.
走幅跳	4 m 43	Evelyn Gardiner	Vassar College N. Y.	1903.
立幅跳	2 m 43	Edith Boardman	National Chathedral Sch., Washington D. C.	1905. 5. 26.
砲丸投 (8 ポンド)	10 m 08	M. Young	Bryn Mawr College Pa.	1907.
壷登り	1 m 49	Mildred Vilas	Vassar College N. Y.	1907. 5. 11.
野球用球投	60 m 24	Alice Beldind	Vassar College N. Y.	1904. 5. 7.
バスケット球投	22 m 10	Harriet J. MacCoy	Vassar College N. Y.	1902.
立高跳	1 m 06	T. Bates	Bryn Mawr College	1905.
三段跳	8 m 37	H. Kempton	Bryn Mawr College	1905.

アムハースト大学 (Amherst College) のジョン・M・テラー教授 (Prof. John M. Tyler) によって書かれた高校生女生徒のための身体トレーニングに関する論文が、1909年5月の『アメリカ

『体育学研究』に掲載された。

これには

「普通的女子生徒は屋外のゲームを経験したことがない。一般に、女生徒は活発で上手く遊んだり、あるいは「大筋」を使うことを学んだことがない。女子生徒がもし自分の母親や叔母がいつも「オテンパな遊び (tom-boy play)」の邪魔をしないのなら、非常に幸せで、普段は彼女に静かで、上品で、高貴で貴婦人らしい振舞いを強要するものである。こうした習慣や性の違いによる結果、高校の女子生徒の発達は同年齢の男子生徒の発達とはまったく違ったものになるのである。」

1911年の『スポルディング社公式陸上競技年鑑』に載った女子の1910年の記録は、次の様に変化した。

表一 3 1911年『Spolding Official Athletic Almanac』による全米女子陸上競技記録表

種 目	記 録	氏 名	所 属	樹 立 日
75 Y 走	8 秒 8	Ruth Spencer	Lake Erie College	1910. 5. 14.
		Ruth Baker	Lake Erie College Painesville, Ohio	1910. 5. 14.
100 Y 走	12 秒 0	Marie Thonton	Lake Erie College	1910. 5. 14.
90 YH	14 秒 0	Marie Thonton	Lake Erie College	1910. 5. 14.
走高跳	1 m 41	Carolyn Hale	Ingleside School New Milford, Conn.	1910. 6. 13.
堀登り	1 m 60	Almade Barr	Vassar College N. Y.	1910. 5. 7.
立高跳	1 m 13	Louise Fee	Lake Erie College	1910. 5. 14.
三段跳	9 m 01	Charlotte Hand	Vassar College N. Y.	1910. 5. 7.
棒高跳	1 m 45	Ruth Spencer	Lake Erie College	1910. 5. 14.

1910年6月14日の『ニューヨーク・タイムズ紙』は、6月13日にキャロライン・ヘイル (Carolyn Hale) の走高跳の世界記録の小さな記事を載せている。「フィールド・デー」が女子生徒のためにイングルサイド校 (Ingleside School) の卒業式と関連させて開催された。走高跳以外にも、キャロラインが5～6種目の競技に優勝した。

「フィールド・デー」はアメリカ国内の諸学校 (school) で行なわれはじめた。『アメリカ体育学研究』の1910年6月号には、1910年5月21日のフィラデルフィアのパブリック・スクールの「第3回フィールド・デー」に5000名の生徒たちが参加したと報告している。女子生徒のために行なわれた陸上競技の種目は、立幅跳・バスケット球投と往復リレー競走であった。

『アメリカ体育学研究』1910年10月号には、セント・ルイスにおける第1回パブリック・スクールの「フィールド・デー」のことを記載している。小学校 (grammar school) の女子学童は、以下の様に区分けされていた。すなわち、体重75ポンド (34 kg) 以下の「年少クラス」は、30ヤード走と走幅跳、バスケット球投、90ポンド (40.8 kg) 以下の「中小クラス」は40ヤード走、立幅跳、バスケット球投、105ポンド (47.7 kg) 以下の「中間クラス」は50ヤード走、走幅跳、バスケット球投、そしてそれ以上の「上級クラス」は60ヤード走、バスケット球投、走幅跳に参加した。唯一男子高校の生徒には100ヤード走、砲丸投、走幅跳が指示されていた。87の小学校の644人の女子学童が参加した。

この論文は次の様な著者の論評で結びとしている。

「市内のあらゆる地域からやってきたお互いにまったく知らない者同士が、肌の色とは関係なく、仲睦まじく友好的な雰囲気だった。偶然に肌の色は違っても、その内の一人が、競技中に良い成績を出し

た場合にはいつも、惜しめない拍手を送った。子どもの友好的な気持をうまく育てるための会話が交わされたので、この日はどんな時でも、どの競走にも偏見は見られなかった。全体としてすべての人の気持と、男女の学童たちが学校のために最高の力を示そうとしたことは、それ自身が道徳面からみても価値のある学習だった。」

女性が男性化していく問題、競争が激化する問題や女性のスポーツ参加に対していつも存在している疑問などの的外れの論文が出されている間に、大学の女子学生を悩ませ、女性の陸上競技の発展や進歩を遅らせたのである。『アメリカ体育学研究』の1911年2月号には、大学の男子学生は5つの現行の陸上競技規則（five existing sets of track and field rules）を整理統合して各種目の競技方法（order）を決めるとともに、恒久的な陸上競技委員会を設立するのに時間を費やしたと述べている。アモス・アロンゾ・スタッグ氏（Amos Alonzo Stagg）は、創設期の3人のメンバーの一人であった。彼に与えられた仕事は、提案された規則の改訂を受取るとともに、議決し、新記録を公認し、協会の違った地域で樹立された記録を収集し、記録や大会要項を管理することであった。発展途上のスポーツの専門的な事柄は、この人によって事務処理された。男性がなぜ陸上競技や大会に参加するのかなどについては誰も疑問に思わなかった。進歩は男性のために達成されてきていて、男性の種目としては、100ヤード・220ヤード・440ヤード・1マイル・2マイルの各競走・16ポンド砲丸投・16ポンドハンマー投・円盤投・走高跳・走幅跳・棒高跳が行なわれる様になった。

8か月後、『アメリカ体育学研究』の1911年10月号には、女性に対する処し方の例が示された。ここには以下の様に報告されている

「ウイスコンシン大学（University of Wisconsin）に入学してきた若い女子学生の何人かは、どうすれば自分のエネルギーを維持するのが良いかが分からないので、今にも「神経症」で倒れそうな者がいる。……女子のトレーニング学科は、こうした学生のために「休息クラス（classes of resting）」を設置した……。約175人の若い女子学生が昨年度、このような「休息クラス」に在籍している。」

『アメリカ体育学研究』の1911年11月号には、小学校のレベルについて、男女の学童は運動会や「フィールド・デー」で競走を行なっている、と記述している。ミシガン州のグランド・ラピッド校（Grand Rapids, Michigan）での運動会では、「低学年の男女学童（small boys and girls）」のためにリレー競走と50ヤード競走が行なわれたと報告している。『アメリカ体育学研究』の1912年11月号には、マサチューセッツ州のケンブリッジ・パブリックスクールの「第1回定期フィールド・デー」が、1912年6月11日にハーバード大学の競技場で開催されたことを報告している。若い少年少女は「ビーンバッグ・レース（bean bag race）」や「旗を持った往復リレー競走（shuttle flag race）」の様な珍しい競技を行なった。高校生のレベルでは女子生徒がドッジボールを行ない、2種目の珍しい競走をしたし、男子生徒は2つの陸上競技大会を行なった。ケンブリッジ高校とラテン語学校の男子生徒はリンジ工芸高校（Rindge Technical School）の男子生徒と対抗陸上競技大会を行なった。

フィラデルフィア州の男女の高校のトレーニング課程の授業では、陸上競技の活動を認定した。女子生徒が参加する様子は、『アメリカ体育学研究』の1913年11月号に写真入りで載っている。

「陸上競技の活動は、……女子生徒が必要とする身体活動は、男子のものほど大きくはないと

思われる。女子生徒にとっては、競争を伴う陸上競技の活動はわずかしかないからである。」

1915年のオハイオ州のプレブル・カントリー校（Preble Country, Ohio）の運動会が陸上競技活動として行なわれた。この活動は13歳以下の少女と13歳以上の2つ部に分かれていた。13歳以下のグループはゴールをめがけてのバスケット球投、野球用球投、40ヤード競走と40ヤードリレー、ポテト競走（potato race）であった。13歳以上のグループはゴールをめがけてのバスケット球投、野球用球投と8ポンドの砲丸投がフィールド種目として、75ヤード競走と75ヤードリレー、ポテトレースが競走種目として行なわれた。これは1915年5月号の『アメリカ体育学研究』に報告されている。

成人の部のレベルでは、1913年の実験的な試みとしてロサンゼルス市の競技の指導者の求めに応じて、女性の50ヤード競走・走高跳・バスケット球投と立幅跳を行なった。1912年の『スポルディング社陸上競技公式年報』には「女子の陸上競技の記録」と「バエサー大学の記録」が掲載されている。1910年以降の「陸上競技の記録」の変化は以下の通りである。

表—4 1912年『Spolding Official Athletic Almanac』による全米女子陸上競技記録表

種 目	記 録	氏 名	所 属	樹 立 日
100 YH	16秒2	Caroline Johnson	Vassar College N. Y.	1911. 5. 4.
走高跳	1 m45	Isabelle Swain	Wells College	1911. 5. 16.
		Mirian Heermans	Aurora, N. Y.	1911. 5. 16.
走幅跳	4 m60	Carolyn Hale	Ingleside School New Milford, Conn.	1911. 6. 3.
立幅跳	2 m48	Almeda Barr	Vassar College N. Y.	1910.
野球球投	62m34	Dorothy Smith	Vassar College N. Y.	1911. 5. 4.
バスケット球投	23m72	Milholland	Vassar College N. Y.	1909.
立高跳	1 m22	Ruth Spencer	Lake Erie College	1911. 5. 15.
棒高跳	1 m72	Ruth Spencer	Lake Erie College	1911. 5. 15.

1915年5月には、インディアナ大学（Indiana University）の女子学生ポーリン・セイベンシャル選手（Pauline Siebenthal）は、棒高跳で6フィート1インチ（1m86）の記録を出した。この記録はこの女子大生だけが出場できる大会で出されたものである。1915年5月21日付の『ニューヨーク・タイムズ紙』には、「インディアナ州での新しい行事として、女性の陸上競技のトラック大会が間も無く開催されるはずである」と書いている。

さらに1915年5月19日付の『ニューヨーク・タイムズ紙』は、「バエサーの記録が破られた」というの見出しとしている。この記事の中で、ミズリー州のメキシコ市のハワード・ペイン大学（Howard Payne College of Mexco, Missouri）と同じ州のコロンビア市のステフェンス大学（Stephence College）との対抗戦で、ハワード・ペイン大学のアイリーン・チャンセラー（Irene Chancellor）が15フィート1インチ（4m60）を跳んで、バエサー大学の学生が保持していた走幅跳の記録を更新したと報じている。

ユニークな種目が1918年4月21日にカリフォルニアで行なわれた。「サンフランシスコ電話郵便会社（The San Francisco Call and Post）」が女性のために「第1回クロスカントリー・ハイキング」を支援した。「ディップシー・ハイク（Dipsea hike）」の距離は7マイル（約11.27 km）であった。1918年4月22日の『サンフランシスコ電話郵便会社報』には、「合衆国ではじめての女性に制限された競技会である第1回クロスカントリー大会が開催され、ヒックマン嬢（Miss Hickman）が優勝の栄に輝いた」と記述している。エディス・ヒックマンは優勝するために、彼

女のコーチのオリンピック・クラブのエディ・スタウト（Eddie Stout of the Olympic Club）氏の指導を受けた。スタウト氏はトレーニングとペース配分を彼女にあらかじめ指示した。3000名の熱心な観衆が177人の女学生が出走するハイクのスタートを見物に来た。女学生たちはこの距離を走ったり歩いたりした。ヒックマンの記録は、1時間18分48秒であった。このハイクは、1919年・20年・21年・22年にも開催された。

〈原著者引用文献〉

- ① Ballentine, Harriet Isabel. "Out-of-Door Sports for College Women." *American Physical Education Review*, March 1898 : pp. 38-43.
- ② 同上 "The Value of Athletics to College Girls." *American Physical Education Review*, June 1901 : pp.151-153.
- ③ 同上 "The Call's Dipsea Race for Girls Proves Athletic Classic." *The San Francisco Call and Post*, April 22 1918 : pp. 14.
- ④ 同上 "Examinations Given January, 1913 to Play Leaders in Los Angels, California." *American Physical Education Review*, October 1913 : pp. 493-494.
- ⑤ 同上 "Fine Athletic Sports." *The Montclair Times*. May 30, 1903.
- ⑥ 同上 "First Annual Field Day of the Cambridge Public Schools." *American Physical Education Review*, November 1912 : pp. 650-653.
- ⑦ 同上 "Games for Scotchmen." *New York Times*, July 6, 1886 : pp. 8.
- ⑧ 同上 "Girl Makes Pole Vault Record." *New York Times*, May 21, 1915 : pp. 10.
- ⑨ 同上 "Girls in Athletic Meet." *New York Times*, May 30, 1903.
- ⑩ "Girls Learn How to Rest at Wisconsin." *American Physical Education Review*, October 1911 : pp. 477.
- ⑪ 同上 "Grand Rapids Annual Playground Festival." *American Physical Education Review*, November 1911 : pp. 540-542.
- ⑫ Hill, Lucille Eaton, ed. *Athletics and Out-Door Sports for Women*. New York : The MacMillan Company, 1903.
- ⑬ Kindervater, A. E. "Our First Public School Field Day." *American Physical Education Review*, October 1910 : pp. 538-547.
- ⑭ "New York Girl Athlete." *New York Times*, June 14, 1910 : pp. 15.
- ⑮ "Preble Country, Ohio, Play Day Festival." *American Physical Education Review*, May 1915 : pp. 331-333.
- ⑯ "The Pretty Pedestrians." *The National Police Gazette*, April 12, 1879 : pp. 11.
- ⑰ Redomond Gerald. *The Caledonian Games in 19 Century America*. Teaneck, N. J. : Fairleigh Dickinson University Press, 1971.
- ⑱ "Report of the Committee on Track Athletics." *American Physical Education Review*, February 1911 : pp. 120-122.
- ⑲ "Report of Convention of the Public School Physical Training Society." *American Physical Education Review*, September 1906 : pp. 149-186.
- ⑳ Requa, August M. "The Object, Means, Difficulties and Successes in Introducing Physical Education into the Public Schools of the Boroughs of Manhattan and the Bronx, New York City." *American Physical Education Review*, September 1898 : pp. 208-211.
- ㉑ Spits, Barry. Dipsea : *The Greatest Race*. San Anselmo, California : Potrero Meadow, 1993.

- ②② Stecher, William A. "Course of Study in Physical Training for Boys' and Girls' High Schools, Philadelphia." *American Physical Education Review*, November 1913 : pp. 551-555.
- ②③ 同上 "Third Field Day of the Public Schools of Philadelphia, Pennsylvania." *American Physical Education Review*, June 1910 : pp. 472-475.
- ②④ "Strong Gotham Girls." *The National Police Gazette*, January 26, 1895 : pp. 7.
- ②⑤ Sullivan, James E., ed. *Spalding's Official Athletic Almanac*. New York : American Sports, 1904, 1908, 1909, 1910, 1911, 1912.
- ②⑥ "University of Wisconsin News Notes." *American Physical Education Review*, January 1915 : pp. 43.
- ②⑦ "Vassar Record Beaten." *New York Times*, May 19 1915 : pp. 10.
- ②⑧ "Vassar Student's First Field Day." *Mind and Body*, November 1895 : pp. 180.
- ②⑨ Walder, Babara. "Walking Mania." *Women Sports*, June 1976 : pp. 16-17.
- ③⑩ "Wisconsin Physical Education Society." *American Physical Education Review*, March 1904 : pp. 57.

(注) “ ”内は論文または原稿名。イタリックは図書名・雑誌名あるいは新聞名。

付記：本翻訳は平成8～10年度文部省科学研究費〔基盤研究C(2)課題番号08680147〕の補助を受けたものである。